

「「なぜそうなるのか。」を、徹底的に詳しく教えるように  
出来ないでしょうか？」

平成 29 年 11 月 7 日

●とろっこさんからの質問

小学 5 年生の姪っ子が算数でつまずいていたので、勉強を教えたのですが、学校で、「覚えろ。」と、言われたところが、分からなくなっていたので、「覚えろと言われたところを全部言ってごらん。」と言って、なぜそうなるのか、詳しく解説しました。具体的には、分数の割り算の時、掛け算に直したら割る分数がひっくり返ったりすることや、三角形の内角が 180 度になったり、四角形の内角が 360 度になったりするところでした。近年、算数嫌いの子供が増えていると聞きました。私が思うに、この原因は、算数は、「なぜそうなるのか。」の学問なのに、学校で、「覚えろ。」と、教えることにより、子供たちが精神的に算数が嫌になることではないかと思います。そこで西田先生に質問ですが、学校で算数を教える時、教師は「覚えろ。」というキーワードは、絶対に使わないようにして、「なぜそうなるのか。」を、徹底的に詳しく教えるように出来ないでしょうか。「なぜそうなるのか。」は、非常に重要なことで、PB でコチコチに固まっている財務省や政治家も、「なぜそうなるのか。」が全く出来ていなくて、「覚えろ。」で、今まで学校でやって来たので、PB も「覚えろ。」になっていると思います。西田先生はいかがお考えでしょうか。

●西田昌司の答え

私が小学 1・2 年生の時の担任の先生は、「なぜそうなるのか」を考えることの重要性を生徒に説く先生で、その先生に教えられたことが私の原点になっています。「なぜそうなるのか」といった疑問を持つのが非常に大切なことで、そのように疑問に感じたら自分で調べたり、先生に聞くなりして疑

問を解決していくことで人は賢くなるのだ、とその先生は説かれました。ただ単に覚えるのではなく、自分の頭をしっかりと使って「なぜ」を追及することで人は成長するのです。

とろっこさんの姪御さんも、とこっこさんから教わることで、きっと立派な大人になると思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>